

平成28年度 麻生中学校 「学校をよりよくするためのアンケート」結果考察

3 読書の習慣化

保護者	お子さんは、家や学校で読書をする習慣が身に付いている。
生徒	読書タイムや家読（うちどく：家での読書）に意欲的に取り組んでいる。
教職員	読書タイムを有効に活用し、生徒の読書習慣が身に付くよう指導した。

昨年度の結果と比較し、「とてもそう思う」と回答した生徒の割合が12%、「そう思う」と回答した生徒の割合が2%それぞれ増加した。保護者の回答も生徒と同様で肯定的な回答が10%増加している。今年度の文化祭では、昨年度から行っている生徒・教職員・保護者のお薦めの本紹介に加え、図書ボランティアの協力を得て行った「ビブリオバトル」等の取組を行った。学校全体で読書活動に力を入れてきた成果が読書への興味関心を高め、「家読」の習慣化につながってきていることと考えられる。

次年度は、市立図書館と連携しながら学校図書館の効果的な活用の仕方について研究し、読書習慣のさらなる向上に努めていきたい。

4 清掃の習慣化

保護者	お子さんは、家庭で身の回りの整理・整頓や清掃などを行っている。
生徒	清掃に意欲的に取り組んでいる。
教職員	生徒と共に清掃活動を行ったり、必要に応じて適切な指導を行ったりした。

昨年度の結果を踏まえ、今年度重点的に取り組んできた清掃活動への取組については、「とてもそう思う」と回答した生徒の割合が15ポイント増加し、大きく改善した。学年毎に生徒が中心となって自らの取組を改善するために話し合い、「無言清掃」「集中清掃」等それぞれの発想を生かした清掃活動を推進していったことが結果として表れたといえる。また、肯定的に回答した保護者も8ポイント増加し、家庭での実践につながってきていると考えられる。

次年度は、学年毎の取組をさらに一歩進め、学校全体の取組としていきたい。

5 規範意識

保護者	お子さんは、学校の決まりや約束を守って生活している。
生徒	学校の決まりや約束を守って生活している。
教職員	生徒が学校の決まりを守って生活できるよう指導した。

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した生徒の割合は合わせて97%、保護者の割合は96%と高い数値を示している。昨年度の結果と比較しても「そう思わない」という回答が、生徒-2ポイント、保護者-2ポイントと改善している。しかし、細かく見ると、「とてもそう思う」と回答した割合は生徒・保護者とも減少しており、課題として残った。今年度は、SNS利用に関する「マイルール」「家庭でのルール」づくりに力を入れてきたが、別な調査によると「守れていない」と回答する生徒も見られたことも、この結果に反映されていると考えられる。

次年度は、「自分たちで決まりをつくって守る」という意識をさらに高め、生徒自らが判断し行動を改善できるようにしていかなければならない。

7 学習指導の充実

保護者	学校は、生徒が学習内容を理解できるよう工夫した授業を実践している。
生徒	先生は、分かりやすい授業を行っている。
教職員	生徒にとって分かりやすく主体的に取り組むことができるよう、授業の工夫・改善を図った。

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した生徒が、昨年度より5ポイント増加した。昨年度より授業改善として取り組んできた「アクティブラーニング」を主体とした学習についての取組が、生徒の意識を高める結果となった。また、昨年度低下してしまった保護者の回答結果については、同じく5ポイント改善し、全体として86%が学習指導に対して一定の評価をしていることが分かった。

8 子どもの人格の尊重

保護者	学校は、生徒の人格を尊重し指導にあたっている。
生徒	先生は、生徒の人格を尊重して指導にあたっている。
教職員	生徒の人格を尊重して指導にあたった。

昨年度は、教職員の結果と生徒・保護者との結果が相反し課題となっていたが、今年度は、それぞれの結果に相関性が見られた。「とてもそう思う」と回答した生徒の数値が7ポイント上昇し、「そう思う」を合わせた割合は90%であり、保護者の割合も9ポイント改善し、同じく90%であった。

コンプライアンスに関する教職員の意識が高まってきたことによる指導改善に一定の評価が得られたと考えられる。

11 教育相談の充実

保護者	学校は、生徒や保護者の相談に親身になって対応している。
生徒	先生は、生徒の相談に親身になって応じている。
教職員	生徒や保護者と相談（連携）する時間を積極的にもち、相談には親身になって応じた。

昨年度の結果と比較すると、特に保護者の結果に改善が見られた。教育相談における「保護者との相談（連携）」について、一定の評価を得られたと考えられる。現在の子供たちを取り巻く様々な問題は、学校だけで解決するのが困難な内容が増えてきており、その内容も複雑化してきている。保護者とともに問題を解決していくという取組を今後もさらに推進していくことで、本校の課題である、「不登校・長期欠席生徒の未然防止」につなげていきたい。

13 キャリア教育の推進

保護者	学校は、生徒の進路選択や将来の生き方について、必要な情報を提供している。
生徒	先生は、進路や将来の職業選択に必要な情報を提供している。
教職員	生徒の進路選択やキャリア発達に関しての適切な情報を提供した。

本校は2年間「キャリア教育の推進」に取り組んできた。その結果として昨年度より生徒・保護者・教職員とも改善が見られた。校外学習や総合的な学習の時間で実践してきた「自ら未来を切り拓く」ための取組が浸透してきたと考えられる。「とてもそう思う」「そう思う」を合わせた割合は、生徒92%、保護者89%、教職員96%と、一定の成果が見られる。

しかし、自らの将来に対する不安をもつ生徒や、目標を見いだせない生徒も見られることから、引き続き一人一人の実態に応じた取組を推進していく必要がある。

17 部活動の充実

保護者	学校は、部活動の指導を熱心に行っている。
生徒	先生は、部活動を熱心に指導している。
教職員	部活動の指導を熱心に行い、生徒の主体性が向上するよう工夫して指導した。

昨年度は、生徒・保護者・教職員ともやや数値が低く、課題として取り組んできた。「とてもそう思う」と回答した結果については、昨年度と比較して生徒が7ポイント、保護者が5ポイント、教職員が33ポイント改善が見られた。昨年度と同様に保護者及び生徒の自由筆記による記述内容においても、部活動の改善を要望する内容が見られるが、指導の改善を評価するコメントもあり、一定の成果があったと考えられる。来年度に向け、さらに満足感の得られる部活動運営を行っていきたい。

19 開かれた学校づくり

保護者	学校は、教育方針や教育活動、生徒の様子を分かりやすく伝えている。 (ホームページ・校長室だより・学年だより・学級だより 等)
生徒	麻生中の生徒の様子が外部に紹介されるのを楽しみにしている。 (ホームページ・校長室だより・学年だより・学級だより・新聞・テレビ)
教職員	生徒の様子を外部に積極的に紹介している。 (ホームページ・学年だより・学級だより・新聞・テレビ)

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した保護者の割合は95%と高く、昨年度同様、教職員による毎日のホームページ更新や校長室だより等積極的な情報公開が評価されていると考えられる。

しかし、生徒は69%と、わずかに4ポイントの改善に止まった。引き続き、各学級や学年で発行している学級便り・学年だよりの内容をよりよくしていくことで、生徒が楽しみに待つものにしていくことや、より生徒の日常の活動を紹介していくことで、公平性をもった内容にしていく必要がある。

20 充実した学校生活

保護者	麻生中学校に入学させてよかったと思っている。
生徒	麻生中に入学してよかったと思っている。
教職員	本校で勤務してよかったと思っている。

「麻生中学校に入学してよかった」と回答している生徒の割合は、「とてもそう思う」「そう思う」が3ポイント低下している。肯定的な回答は依然として92%と高い数値ではある、生徒の学校生活への満足感や、学校・学年・学級・部活動等への所属感を高める取組を工夫していかなければならない。